



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

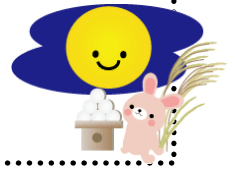
大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



かかりつけ薬局を持ちましょう！

薬局長 ^{たなか} 田中 ^{えみこ} 恵美子



薬漬け医療解消のために薬価（お薬の公定価格）はどんどん切り下げられ、薬剤費の無駄使いはずいぶん解消しました。同時に院外処方も一般的になりました。それでも、薬剤費は国民医療費の2割以上を占めており、年々増え続けています。国はきたる少子高齢化社会に向けて、さらに患者さんのお薬代の負担を軽くし、また医療費を削減するために薬価の安い後発医薬品の普及を進めています。患者さん個人だけでなく、国や地方の税金、国保・健保の保険料の負担も減り、ひとりだけでなくみんなの負担も軽くなるからです。

でも、これには大きな危険も伴います。後発医薬品には、同じ成分で名前が違うものが数多くあるため、複数の医療機関で処方されたお薬を、気付かないで二重に服用していたりします。当センターでも、原則、院外処方ですが、『かかりつけ薬局』を決めていますか？

後発医薬品に限らず、同じ薬局で薬歴（お薬の服用歴）を管理してもらうことで、複数の医療機関で処方されたお薬の重複や相互作用（飲み合わせ）、副作用などがチェックできます。『かかりつけ薬局』を決めると、あなたのお薬の交通整理ができるのです。気軽に相談でき、信頼できる薬剤師がいる『かかりつけ薬局』を決め、しっかり薬歴管理をしてもらいましょう。当センター入院時の持参薬確認でも、お薬手帳の情報はとても重要です。そして、お薬手帳は、『何処でも・すぐに』を合言葉に、バッグの中に常に持ち歩きましょう。



放射線治療の線量と回数について(当院で扱っている疾患を中心に) 放射線科診療主任 ^{まえかど} 前角 ^{ともこ} 智子

抗がん剤、手術とともにがん治療の中心となっている放射線治療ですが、病気の種類、適応によって線量や回数は変わります。その適応はがんの完治を目指す根治照射。乳がんには代表される手術後の再発率を減らす術後照射、手術の前に腫瘍を小さくするための術前照射。病気による疼痛の緩和を行う姑息照射などに分かれます。

根治照射の中で進行期非小細胞肺癌の根治に必要な放射線の量は 60~66Gy(グレイ)程度です。放射線の量を増やせば増やすほど放射線があたる範囲の病気の治癒率は上がります。しかし、副作用の増加や放射線があたる範囲以外での再発率の問題などから、70Gy 以上放射線をあてると治療成績が上がるというデータはありません。通常、この線量を1回2Gyで30-33回に分けます。そして1日1回、1週間に5日、6-7週間かけて行います。子宮頸癌の根治照射も 60Gy 程度ですが、お腹に広くあたり過ぎると副作用が強くなるため一回の線量を1.8Gy に減らします。このため、肺癌より少し日数がかかります。悪性リンパ腫では 50Gy (25回) 以上必要ないとされています。乳がんなどの術後で病気が完全に切り切れているものは 50Gy(25回)。少し細胞が残っている可能性のあるものについては 60Gy(30回)。術前の場合は手術への影響を考慮して 40Gy(20回)と少なめです。疼痛を和らげる治

療の場合は病気を完全に治すことよりも早く治療を終わらせることを優先するため1回の放射

